

# 森林におけるエゾシカ対策～森林管理者がエゾシカを捕獲する時代へ～

林業試験場 森林資源部 保護グループ 明石信廣・南野一博・雲野明  
 環境科学研究センター 自然環境部 保護管理グループ 宇野裕之・稲富佳洋・上野真由美・長雄一  
 酪農学園大学 吉田剛司・小野司・日野貴文・伊吾田宏正

## 森林被害・影響の把握

簡易チェックシートによる天然林の影響評価や人工林における被害調査によって、森林被害の状況が把握されるようになりました。

## エゾシカの生息密度の推定

北海道東部地域、西部地域についてエゾシカの個体数が推定されていますが、現在、より小さな地域を対象として生息密度を推定するため、ライトランセクト法やカメラトラップ法について検討しています。

## 捕獲手法の開発

エゾシカ捕獲の手法は銃猟が中心ですが、囲いワナやくりワナが有効な場合もあり、状況に応じて使い分ける必要があります。道総研では、森林内でも運用できる小型囲いワナの開発をすすめています。

## 捕獲適地の推定

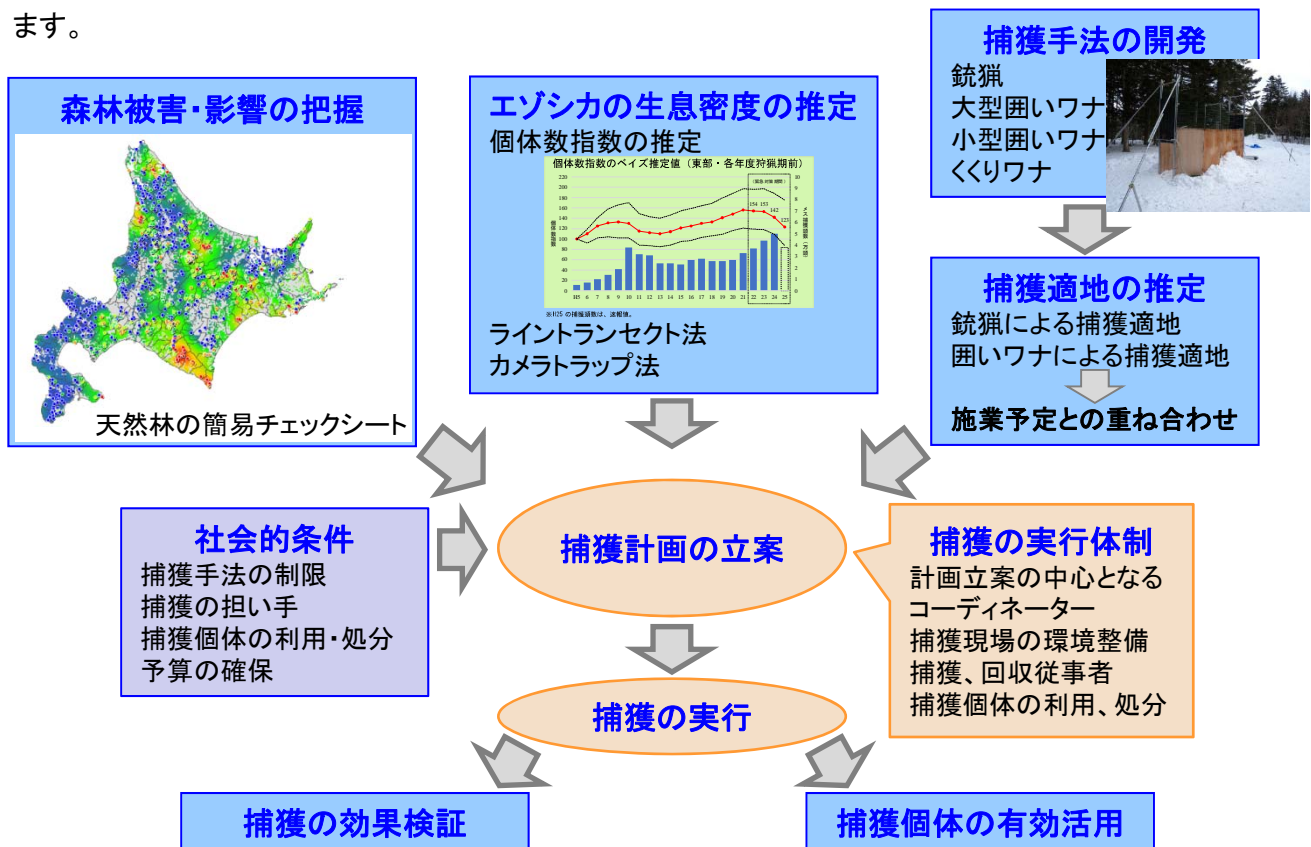
捕獲の手法ごとに、実施可能な場所にさまざまな制約があります。森林GISに蓄積された情報を活用することにより、捕獲が可能な適地を絞り込むことが可能です。

## 捕獲計画の立案・実行体制の構築

森林被害・影響、エゾシカの生息密度、捕獲適地を重ね合わせることで、効率的に捕獲ができる場所を絞り込むことができます。捕獲には多くの関係機関の連携が必要であり、捕獲したエゾシカの有効活用や処分まで考慮して、実行体制を構築しなければなりません。

## 捕獲の効果検証

森林被害・影響やエゾシカの生息状況のモニタリングを継続することで、捕獲の効果を検証することができます。また、萌芽幹の成長や草本植物の開花状況などを指標とした評価手法について検討しています。



本研究の一部は、酪農学園大学と共同で実施している北海道立総合研究機構の重点研究「森林管理と連携したエゾシカの個体数管理手法に関する研究」(平成24～28年度)の成果です。